

2021年10月31日～11月6日 各家庭でのディポーション用テキスト

## ■任務遂行の訓練（2/4）

人々の怒り あなたの生涯についての神のみこころを知るやいなや、それを妨害しようとして働きかけてくる者がある。人間のたましいの敵は、至高者なる方の目的達成を、全力を傾けて妨害しようとする。パウロが新たな任務を与えられると、次の朝にはもう悪人たちが集まって、パウロの命を奪おうと計画した（使徒 23：12、13）。ダビデが王となったときには「ペリシテ人はみな、ダビデをねらって上って来た」（Ⅱサムエル 5：17）。ネヘミヤが町を再建しようとする、敵対者たちは彼を妨げるために、脅迫、つらあて、陰謀などを用意した。しかしながら、あなたのとろうとする道に反対するのは、よこしまな人々ばかりであるとはかぎらない。善良な人々、真実な人々も、神のみこころを誤解し、ペテロのように、「とんでもないことです」と言うのである。パリサイ人やヘロデ党の者たちは、主イエスを殺そうとした（マルコ 3：6）。また主イエスの身内の者たちは、「イエスを連れ戻しに出で来た。『気が狂ったのだ。』と言う人たちがいたからである」（同 21 節）。

このような問題について、みことばは何と教えているだろうか。「人を恐れるとわなにかかる。しかし主に信頼する者は守られる」（箴言 29：25）。ネヘミヤは「私のような者が逃げてよいものか」と言うことができた（ネヘミヤ 6：11）。「主ご自身がこう言われるのです。『わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。』そこで、私たちは確信に満ちてこう言います。『主は私の助け手です。私は恐れません。人間が、私に対して何ができましよう』（ヘブル 13：5、6）。「あなたを攻めるために作られる武器は、どれも役に立たなくなる。また、さばきの時、あ

なたを責めたてるどんな舌でも、あなたはそれを罪に定める。これが、主のしもべたちの受け継ぐ分、わたしから受ける彼らの義である」(イザヤ 54 : 17、参照 41 : 10-13、詩篇 31 : 17-21、37 : 7-11)。

主は、試みられてもなお信じ頼っているご自分の子に、逃れる道を備えておられる。主が助けを与えてくださることは確かであるが、その方法を予測することはほとんどできない。ひとりの若者が、パウロの迫害者たちの計画を立ち聞きし、そのおかげで使徒の命は助けられた。ゴリヤテは羊飼いの少年によって、石投げ器と小石で殺された。ハマンが絞首台を立ててしまったのも、モルデカイの善行の記録が、心落ち着かぬ王の前で読まれた。名もない四人のらい病人は、飢えたサマリヤ人を救うために「天の窓」を開いた(Ⅱ列王 7 章)。神は「舌の争い」からあなたを守り(詩篇 31 : 20)、人々の怒りからあなたを救ってくださる。

年月の空費 あなたのたましいの敵は決心が強く悪賢く、一度失敗したからといって、あなたの生涯における神のみこころに反対することを思いとどまるような者ではない。パウロはローマに行く途中、エルサレムからカイザリヤに連れて行かれたが、そこでは、いつ果てるとも知れない監禁の生活が待っていた。彼には何の罪状もなかったが、裁判官の中に知人もいなかったし、賄賂を贈ることもしなかった(使徒 24 : 26)。そのため、彼はいつまでも牢の中にじっとしていなければならなかった。彼のたましいは孤独であり、暗黒であった。それは全く、他人の怠慢と利己主義のもたらした結果であった。